

# 学習院アーカイブズ ニューズレター

# 01

Gakushuin Archives Newsletter 2012.9.20 vol.



## Contents

### 創刊の言葉

学習院アーカイブズ室長 森田道也 ..... 2

### 講演会概要報告

学習院アーカイブズへの期待  
—役割と課題— 講師 菊池光興氏 ..... 3

史料紹介 女子学習院に熊? ..... 5

主な活動 (2011年4月~2012年7月) ..... 6

規程 ..... 8



目白キャンパスの桜池  
(1965年頃)と  
現在の跡地(右下)

1963(昭和38)年、輔仁会館建設の際に整備され、学生の憩いの場となった。1992(平成4)年に埋め立てられ噴水が残されている。

# 創刊の言葉

学習院アーカイブズ室長

森田 道也

学校法人学習院常務理事、学習院大学経済学部教授



学習院アーカイブズは、「本院の経営、教育・研究活動及びこれらの活動に伴う事務処理において作成され、収受される史資料のうち、将来に残すべき価値のある史資料を評価選別し、保存・管理する組織」(学習院アーカイブズ規程、第2条)として2011年に設立された院長直轄の組織である。ここに学習院アーカイブズニューズレターを創刊でき、その本格的稼働の契機となることで、喜ばしいかぎりである。

確かに学習院アーカイブズの設立は2011年4月であるが、その前身的活動を遡ると古い。アーカイブズの活動は学校史の編纂を区切りとしながら行われてきた。1928(昭和3)年の『開校五十年記念学習院史』、若干遅れて1935(昭和10)年の『女子学習院五十年史』がまず大きなものとして挙げることができる。その後、1963年に学習院創立85周年を迎え、『学習院の歩み』を刊行し、さらに、1977(昭和52)年の学習院創立百周年を機に1978年、『学習院の百年』を刊行した。アーカイブズを担う恒常組織の設置は、百年史編纂事業にあたった1972年の百年史編纂室の大学図書館内への設置に始まる。それは1981年4月に総務部庶務課内に移され、院史資料室となった。同室は1980年から86年の間に『学習院百年史』全三編を完成した。その過程で収集、整理した資料の目録化やレファレンス対応がアーカイブズの基本的作業の基礎をつくることになる。さらに、1994年に大学五十年史編纂が始まり、院史資料室と隣接して編纂室が設置された。2001年に『学習院大学五十年史』(上・下巻)が完成して、院史資料室がその資料を引き継ぎ、

2011年に院史資料室は総務部から独立して、現在の、院長直轄の学習院アーカイブズへと衣替えする。その間、2002年に図録『学習院125年』、2003年に『半世紀 学習院女子短期大学史』、2010年に『学習院女子中等科 女子高等科125年史』が刊行されたが、院史資料室に蓄積された資料や情報が活用されたことは言うまでもない。

アーカイブズの意義については史実の組織化、日々生み出される膨大な情報の整理整頓など、いまさらここで述べる必要もないが、そこでの最重要機能は、その組織の風土づくりの一端を担うことだろう。日々の活動を律してきた行動様式を確認し、新たな状況への行動適応による新しい行動様式の創造の契機を確認することで、それら行動様式の見える化を支援する。小学生が使うランドセルは日本で最初に学習院初等科が使ったとか、日本で最初かどうか確認できていないがその揺籃期に初等科では野球をしていた(最近発見された日誌に記載)などの史実に触れていると、学習院が率先して新しいものを貪欲に取り入れてきた日本社会のある種の特徴を代表していたのかも知れないなどと想像をふくらますことができる。学習院アーカイブズが、学習院が自らを知り、社会にも知ってもらい、来る将来に向かって進むべき方向を決めるにあたって支援できる質の高い情報を提供していく役割を果たせるように努力していきたい。

講師 菊池 光興 氏

## 学習院アーカイブズへの期待 – 役割と課題 –

学習院アーカイブズと文部科学省科学研究費（研究代表者：大学文学部 保坂裕興）「学校アーカイブズの開発・運営に関する基礎的研究」との共催による講演会を、教職員を対象として2012年2月22日に大学で開催した。国立公文書館前館長（現顧問）で、大学客員教授を昨年まで務められた菊池光興先生を講師にお迎えした。

約1時間にわたる濃密で示唆に富んだ講演に続き、質疑応答をおこない、評価選別の方法と視点、新しい記録媒体への対処、外部機関における資料公開の問題に関し、懇切な回答をいただいた。

以下には、先生にご了解をいただき、講演概要を掲載させていただきます。

### 第1 「記録」とは

まず記録とは、時間と空間を超えて伝達される個人あるいは組織の情報とその情報を記載した媒体である。古代バビロニアやアッシリアの楔形文字から最近の電子文書、データベースにいたるまで様々な記録が残されているが、記録が残っている民族や国家と残っていない集団との対比で見ると、記録があるということが歴史的評価に直結しているといわざるを得ない。

### 第2 「アーカイブズ」とは何か

アーカイブズとは多義性を有する言葉であるが、大きく分けて三つの意味がある。

(A) 一つは、個人または組織がその活動の中で作ったり、受け取った記録、蓄積した文書記録のうち、多様な利用価値を有するがゆえに永続的に保存される資料をいう。この中には、紙に書かれたものだけではなく、映像、音声、電子記録なども含んでおり、最近はますます多様性を増している。ここでいう「利用価値」とは、歴史学に奉仕するだけではなく、今日生活している人たちの日常生活に役立つものがアーカイブズである、と考えている。(B) 二つ目の意味は、公文書館、文書館、歴史資料館などの文書記録を保存し、整理し、利用に供する施設そのものをいう。(C) 三つ目は、動詞的用法であり、記録を保存し、整理・利用する行為そのものを指すことがある。

これらの専門職が、アーキビストと呼ばれる。



講演中の菊池光興氏

### 第3 最近「記録」の取扱いに注目が集まるようになった理由

(A) 東日本大震災に際し各種会議の議事録・記録が作られていなかったことや年金記録の喪失など、記録にまつわる役所のスキャンダルが多発している。(B) 被災した文書の復元・修復、市町村の合併による地域伝来の記録の廃棄・放置、また個人情報の取扱いの欠陥など、地方自治体でも記録の保存・利用の問題がある。(C) 民間企業などにおいても、記録軽視により企業コンプライアンスや情報公開が十分にされていない事例も多い。(D) コンピュータなどの電子記録に関して、ネット犯罪あるいは個人の権利を損なうような事件が頻発している。また最近では、フェイスブック、ツイッターなど、情報発信手段の大衆化により「アラブの春」に見られるような社会的な大変動が起こっている。

以上の事例の多くは、国家社会の体制や企業その他の組織そのものの根底を揺るがすものであり、「公文書管理法」は、このような社会的変化への対応の必要性から作られたものである。

(E) 以上の要因に加えて、各方面で記録管理意識が向上し、国民の関心が集まるようになった。国立公文書館では現在、公文書の移管が進み、76万冊の行政文書ファイル・簿冊があるが、公開度も高まってきている。典型的な例として「極東軍事裁判記録」など従来非公開とされていた公文書の公開が進んでいる。

### 第4 「記録」は何故大事なのか、「アーカイブズ」はどんな役割を期待されるのか

(A) 記録は人類共通の遺産として後世に伝えるべきものである。時間・空間を超えた人間活動の証明、

歴史の証言であり、後世の人々への贈り物である。また国家・社会・組織の「集団的記憶」であり、一人ひとりの記憶でなく、みんなが持つ共通の記録として構成員の過去と未来をつなぐアイデンティティの拠り所となるものである。東日本大震災の被災家族が「家族写真」や「位牌」を大事にする姿は、過去の記憶というものが、生きていくうえでの共通のよすがになることを示している。記録とは、明日に向かって踏み出すために不可欠である。(B) 二つ目は、過去の記録から知恵を得て、将来の「あるべき姿」を映し出す、過去を照らして現在の「在りよう」を正すことである。日本には『大鏡』『吾妻鏡』などの、中国には『資治通鑑』などの例がある。過去の記録を見ることによって未来に光を当て、時代を超えた対話がなされていく。(C) 三つ目に、政府の記録は国民の権利を守るものであり、開かれた国政運営の基本・基礎となるものである。民主国家として政府の施策を批判したり、評価するには、記録がなければ何もできないし、記録がなければ国民への説明責任も果たすことができない。また言うまでもなく、旅券、戸籍、住民票、医療保険証など、記録によって公的証明が行われる。

(D) 政府以外の民間記録の重要性も増している。企業や各種法人などは、法令遵守、説明責任、透明性などが求められている。規制緩和の流れの中で、記録は、企業活動の適性を事後的に立証する証拠となる。(E) 国際社会においても記録は重視される。従来の個々の国家の枠組みを脱した「国際社会の歴史」が再評価される中、記録は、歴史に絡む議論や紛争解決の証拠資料となる。記録の公開と共有を通じて、記録所有者の優越性と公開した側の有利さなどを意味する「アーカイバル・ヘゲモニー」が存在する。

(F) このような多様な意義を持つ記録を保存し、利用に供するのが「アーカイブズ」の役割であり、同時に、記録の正しい取扱いの知識・慣行を広く国民あるいは関係者に普及・啓発していくことも大きな役割である。日本のアーカイブズの歴史は長く、奈良時代から徳川幕府に至るまで立派な内容を持っているが、近代以降公文書館の制度導入は遅れ、その歴史は浅い。国立公文書館が設置されたのは41年前の1971年である。地方自治体や国立大学法人などにおける整備も遅れている。これからアーカイブズが行わなければならないことは、国際的な文書管理や記録

保存の標準の普及・定着である。

## 第5 学習院アーカイブズへの期待と今後の課題

(A) 官立学校から私立学校へというユニークな遍歴や日本の女性教育の先鞭を担った特別な意義をアーカイブズの中から明らかにしてほしい。(B) 長い歴史と貴重な資料が蓄積されたアーカイブズとしての期待がある。(C) 多様な構成機関が分散して保有する史資料の所在把握とそれらの目録編成から始めることが第一であり、史資料の集中管理が望ましい。(D) 適用範囲を可能な限り広くした統一的な「文書管理規程」を設けることが有効である。紙媒体によらない電子文書の移管・保存の取扱いについても規定してほしい。

(E) 効果的・効率的組織運営への貢献という側面から、アーカイブズの利用についての規定化は大事である。そのためにも、各部署の中核的業務・機能を把握し、それに基づき関係文書を重点的に保存・整理するためのファイル管理簿などを作成する必要があるのではないか。(F) 非現用とされる事務文書の中からアーカイブズとして保存すべき文書を評価選別していくプロセスの確立と選別基準の策定も必要となろう。

(G) アーカイブズの資料を誰にどのような形で利用を認めるのか、私立学校は必ずしも「公開」が全面的に求められてはいないが、管理運営の部分については説明のための資料を整える必要がある。一方、教育の記録は個人情報そのものであり、厳密な保護は不可欠である。(H) 今後増大するポーン・デジタルの事務文書を取り扱うためにも、アーカイブズのデジタル化の取組みをできるだけ早く始めてはどうか。

(I) アーカイブズの担当者が各部署に足を運び、文書管理についての意見交換や実態把握につとめることが肝要である。(J) 教育という、人間に関わる組織と人々のアーカイブズであることが基本である。生きている人に、生きている証を示す。「いのち」と付き合い「にんげん」に寄り添う優しいアーカイブズとなることを心から期待している。

最後に、毎日の仕事の中で作られる記録あるいは受け取る文書を大事に保存し、必要なものを後世の人に残していくことが、アーカイブズを支える役割を果たすことになる。それは50年、100年後の人にとって、貴重な贈り物になるであろう。

(学習院アーカイブズ 長岡修司)

## 女子学習院に熊？

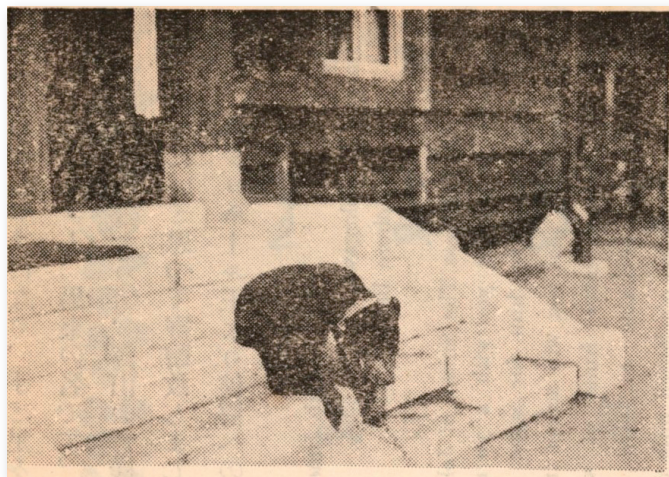
現在の学習院女子中・高等科は、1918（大正7）年から戦前にかけて女子学習院という名で青山に校地を構えていた。女子学習院は家庭との連絡のため小冊子『おたより』を、1920（大正9）年3月から1944（昭和19）年5月まで通算91号を発行していた。『おたより』には卒業式や運動会・遠足・修学旅行といった学校行事の様子や学校の動静が詳細に記録され、学習院のみならず女子教育の歴史を研究する上での一級史料である。その10号（1921年11月3日）に、徳川義親侯爵からゴムの木や椰子の果実とともに、「南洋産子熊 一頭」「南洋産猿 一疋」を寄贈されたことが記されている。

徳川義親は1921年5月から7月マレー、ジャワを旅し、ジョホール王（スルタン）の招きで虎狩りや象狩りを行った。帰国後義親は「虎狩りの殿様」との異名をとったのだが、その際にスルタンから熊を贈呈されたという。『おたより』には熊についての「侯爵の書信」が掲載されている。

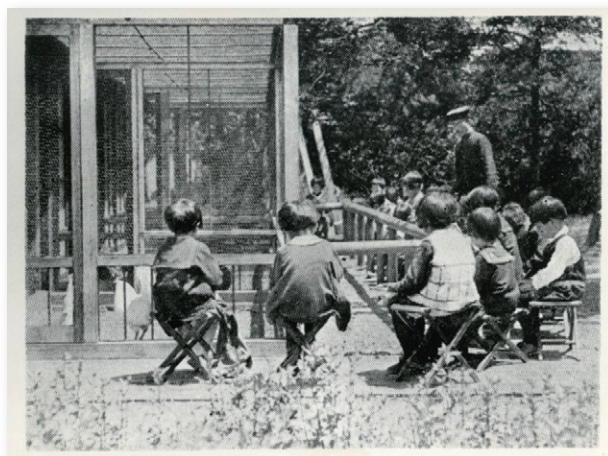
馬來半島に於ける獵が終つて日本に歸る時 Johore の王様から別紙写しの手紙を添へて熊を贈られました。熊の名は Jenny と申します。今年早く生れたものださうです。王様が大変に可愛がつてよく馴らされ、少しは芸も覚えてゐましたが馬來語でないと通じませんから今は結局芸無しと同様です。併し新に日本語で教育すれば何んでもするやうになりませう。馬來語で熊をプロアンと申します。馬來の熊は日本やシベリアの熊のやうに大きくはなりません。性質はきわめておとなしいものです。

この熊はマレーグマで、義親が記すように人に対する凶暴性は低くペットとして飼育されていることもあるという。『おたより』には校舎の入り口とおぼしき階段にたたずむ Jenny の写真を掲載し、「其後熊も猿もなかなか元気で、学生幼児と好い仲間になつて快活に遊んで居ます。目下設備中の動物園にかういふ珍客を迎へて学生幼児の喜びは大したもので人気は一通りではありません」と伝えている。

とはいえ熊もいずれ成長し、生徒と「好い仲間になつて快活に遊んで」もいられなくなるだろう。と思つて



いたら、1922年7月15日付の『おたより』14号に岩崎俊弥氏（旭硝子創業者・岩崎弥之助次男）がノロジカ4頭を寄贈した記事が載っていた。そこには「熊がなくなつてさびしい折柄此の見るから可愛い動物を得ましたので、学校動物園も急に賑はしくなりました。理科の観察に、写生又綴方に十分役立たせ度い存じております」とあり、熊の Jenny は哀れ1年足らずで死んでしまったようだ。徳川義親はいくつかの紀行文を残しているが、この熊については何もふれていない。



禽舎での写生（1935年頃）

女子学習院は校地南側の運動場の周囲に動物園や禽舎・鶏舎を設け、果樹園・植物園とともに生物・園芸の実習、写生などの授業に利用していた。小学校低学年にあたる本科前期には、具体的な事物を示して感覚に訴えて教授する「直感課」の授業が行われ、自然観察が重視されたという。現在のように画像で何でも見ることができないため、実物を用意しての観察や写生が行われたとはいえ、学校に動物園を作つて名士から寄贈された熊や猿、鹿を飼うとは、女子学習院の教育に何ともいえないスケールの大きさを感じずにはいられない。

（学習院アーカイブズ 桑尾光太郎）

## 主な活動 (2011年4月～2012年7月)

### ◆ 文書・資料の調査・整理及び目録作成

#### ◎ 女子中・高等科所蔵史資料の整理・目録作成

##### ① 非現用文書・史資料の整理・仮目録作成

2010年の校舎改築に伴い移管された、ダンボール箱150箱強のうち、2011年度は約90箱分を整理。戦前の女子学習院時代及び戦後の教務、事務、学校行事、行啓関係文書など。(2011年4月～2012年3月)

2012年4月以降、整理を継続。写真類、もの資料の概要についても確認。



女子中・高等科史料室

##### ② 女子中・高等科所蔵、陸軍作成掛地図の調査 (2011年7月)

##### ③ 北島以登子氏(昭憲皇太后女官)関係資料の整理 文箱、漆盆、花器、硯、銀杯、人形など。 (2011年11月)

#### ◎ 初等科所蔵資料の調査・整理

##### ① 初等科西館2階倉庫の調査(概要目録作成、写真撮影)

書類・簿冊(明治期～)、明治期ランドセル(ランドセルの使用は日本では学習院が最初)、教官服・生徒制服、剥製など戦前期教育教材、生徒文集、写真類など。(2012年2月)



初等科ランドセル(明治期)

##### ② 初等科西館1階展示室の調査(概要目録作成、写真撮影)

標本(海外工業製品、鉱物・植物・織物など)、掛図、絵葉書、歴史風俗人形、天体儀、古書籍、簿冊類など。(2012年3月)

(※) 学習院大学は2013年、文学部に教育学科を開設予定。学科開設記念展示(2012年10月予定、初等科所蔵資料を出品)に協力。

#### ◎ 中等科所蔵、沼津游泳関係資料・写真の調査・整理 (2011年4～5月)

#### ◎ 中・高等科事務資料室所蔵文書の概要調査 (2012年5～6月)

#### ◎ 幼稚園事務室所蔵文書の調査・仮目録作成 (2011年9～11月)

#### ◎ 女子大学所蔵文書の概要調査、改組関係文書の選別・仮目録作成 (2011年9月、2012年3月)

#### ◎ 総務部所蔵文書の仮目録作成

戦後の大学及び大学院設置申請書、公文書、私立大学連盟関係、各種調査・統計、その他総務部作成文書。(2011年6～7月)

#### ◎ 学習院アーカイブズ所蔵、乃木希典院長関係史料の再整理

書簡、新聞切抜、行軍日記、雑誌ほか、これまで未整理だった史料の整理。(2012年4月～)

#### ◎ 安倍能成院長関係資料の学内所在調査 (2012年6月～)

### ◆ 史資料のデータベース化・デジタル化

#### ◎ 稿本「学習院物語」(大学図書館蔵)のマイクロフィルム撮影及びデジタル化

#### ◎ 旧制高等科卒業記念写真帳(大学図書館蔵)のデジタル化

#### ◎ 『学習院大学の50年』使用写真のデジタル化

#### ◎ 学習院百年史編纂時収集写真のデジタル化

#### ◎ 学習院アーカイブズ所蔵文書のデジタル化

### ◆ 劣化資料の保存修復

#### ◎ 女子中・高等科所蔵、戦災で焼焦げた成績簿

#### ◎ 学習院大学案内ポスター(1957年)

### ◆ 史資料の移管・寄贈

#### ◎ 足踏式壺型自動演奏ピアノ

皇太子明仁親王殿下（今上天皇）ご入寮の目白「清明寮」に置かれていた自動演奏ピアノ。  
桜友会の支援を得て修理・復元の上、中・高等科から移管された。大学中央教育研究棟 12 階の松本楼に設置。（2011 年 4 月）



足踏式壺型自動演奏ピアノ

◎ 碁盤・碁石

皇室の深曽木の儀で使用されている碁盤の姉妹盤。学習院大学に寄贈されたもので、大学学長室から移管された。（2012 年 3 月）

◎ 学習院輔仁会山岳部 日本山岳会会員バッジ  
（会員番号 1320 番）

山桜会（OB 会）より寄託。（2011 年 6 月）

◎ 内藤政道氏所蔵水上部などのバッヂ 35 点  
卒業生ご遺族より寄贈。（2011 年 7 月）

◎ 施設部所蔵非現用文書（図面等）の移管・調査  
（2011 年 7～8 月）

◆ 資料貸出し

◎ 乃木希典院長関係史料

遺墨（京都学習院学則など）、書簡集、遺品（銀製花瓶、食器、茶器、碁石など）合計 21 点、博物館明治村へ貸出し。

学習院長官舎修理工事竣工記念特別展「1887 ベルリンの出会い 学習院長乃木希典と森鷗外」に出品のため。

（展示期間 2012 年 1 月 21 日～6 月 24 日）

◎ 乃木希典院長関係史料

遺墨（奉台命書など）、独逸滞在中筆記、軍服、旅順表忠塔建設関係文書など合計 9 点、明治神宮に貸出し。明治天皇百年祭・乃木神社御祭神百年祭記念展「明治天皇と乃木大将」に出品のため。

（展示期間 2012 年 6 月 9 日～9 月 23 日）

◆ 教育・研究支援

◎ 大学基礎教養科目「近代日本と学習院」

（担当：桑尾光太郎、2012 年度）

◎ 大学院アーカイブズ学専攻科目「アーカイブズ学マネジメント実習」（担当：森本祥子助教）における資料利用（2011 年度）

◆ 年史編纂支援

◎ 幼稚園再開園 50 周年記念誌編纂の支援

（2011 年 4 月～）

※学習院幼稚園は 1894（明治 27）年に華族女学校に設置され、戦局悪化のため 1944（昭和 19）年保育停止、47 年廃止された。1963 年に再開園し、2013 年で 50 周年を迎える。

◆ 展示

◎ 学習院百周年記念会館 3 階展示コーナーのリニューアル  
（2012 年 4 月）

※幕末京都の学習院から現在まで、160 年にわたる学習院の歴史の変遷を、それぞれの時代を代表する写真・文書をパネルにして展示。



展示コーナーの一部

◆ 外部機関調査

◎ 京都大学文書館の調査

文書館の施設・設備、保存環境ならびに移管文書の選別・整理作業を取材。（2011 年 9 月）

◎ 三島由紀夫文学館（山中湖）

学習院関係資料を調査。（2012 年 5 月）

◎ 豊島区役所

学習院幼稚園開設関係文書の調査。（2012 年 5 月）

◆ 研究会等での発表

◎ 全国大学史資料協議会東日本部会研究部会において報告「学習院アーカイブズの発足と課題—事務文書移管への対応に向けて」（2011 年 7 月）

◎ 近畿大学全学 FD 研究集会「大学改革における大学アーカイブズ」において報告（2011 年 12 月）

## ◆ レファレンス件数概要 平成23年4月～平成24年7月

	学内				小計
	広報課・史料館	他部署	教員	学生・生徒	
質問・調査依頼	11	20	4	6	41
資料閲覧・複写・写真提供・見学等	20	11	5	14	50
資料貸出・寄贈等	1	1	0	3	5
小計	32	32	9	23	96

	学外					小計	学内・学外合計
	卒業生	元教職員	マスコミ・出版・博物館等	研究者・学生	その他		
質問・調査依頼	7	5	24	15	12	63	104
資料閲覧・複写・写真提供・見学等	15	1	21	25	5	67	117
資料貸出・寄贈等	3	0	3	1	1	8	13
小計	25	6	48	41	18	138	234

## 規程

Gakushuin Archives Newsletter

### 学習院アーカイブズ規程

平成23年4月1日施行

(趣旨)

第1条 この規程は、学校法人学習院(以下「本院」という。)に置く学習院アーカイブズに関し、必要な事項を定める。

(設立)

第2条 学習院アーカイブズは、本院の経営、教育・研究活動及びこれらの活動に伴う事務処理において作成され、収受される史資料のうち、将来に残すべき価値のある史資料を評価選別し、保存・管理する組織として設立する。

(業務)

第3条 学習院アーカイブズは、前条の目的を達成するため学校法人学習院事務分掌規程第2条の2に定める業務を行う。

(構成)

第4条 学習院アーカイブズは、次の者から構成する。

- 一 室長
- 二 事務職員 3名(内 アーキビスト2名)

(室長)

第5条 室長は、総務担当常務理事とし、院長が委嘱する。

(運営委員会)

第6条 学習院アーカイブズに、学習院アーカイブズ運営委員会を置く。

(改正)

第7条 この規程の改正は、科長会議の議を経て、院長が行う。

附 則

この規程は、平成23年4月1日から施行する。

### 《参考》学校法人学習院事務分掌規程(一部)

平成23年4月1日改正

第2条の2 学習院アーカイブズにおいては、次の事務をつかさどる。

- 1 学習院関係史資料(以下「史資料」という。)の保存と管理に関する事項
- 2 事務文書中の非現用文書の評価選別及び保存すべき非現用文書の保存と管理に関する事項
- 3 非現用文書の評価選別基準等についての講習会の実施に関する事項
- 4 史資料のレファレンスに関する事項
- 5 他機関にある史資料の調査研究に関する事項
- 6 史資料の展示室の管理運営に関する事項
- 7 史資料の収集に関する事項
- 8 学習院史の編纂及び各学校の記念誌編纂支援に関する事項
- 9 学習院アーカイブズ運営委員会に関する事項
- 10 その他学習院アーカイブズに関する事項

### ● 資料提供のお願い

学習院の歴史を示す書類・写真や記念品、印刷物などをお持ちでしたら、ご教示いただけますようお願い申し上げます。

### 学習院アーカイブズ・ニュースレター第1号 2012(平成24)年9月20日発行

編集・発行 学習院アーカイブズ

〒171-8588 東京都豊島区目白1-5-1  
TEL 03-3986-0221(内線2531、2551)  
事務室 西5号館(本部棟)地下1階